

埼玉の植物防疫

2013. 3. No.119
発行 社団法人 埼玉県植物防疫協会
さいたま市大宮区北袋町1丁目340番地
埼玉県農業共済会館内
Tel 048・645・2226 Fax 048・645・2144

目 次

	頁
I 昨今、新たに見つかった病害虫について……………病害虫防除所	1
II 新農薬情報……………全農埼玉県本部生産資材部	5
	埼玉県農薬販売協会 8
III 病害虫こぼれ話	
アオマツムシの分布拡大と樹木の葉の食害…農総研病害虫防除技術担当	11
III 協会だより……………	14
1 平成25年度農薬展示ほ申込み状況について	
2 新法人、一般社団法人への移行申請状況について	

I 昨今、新たに見つかった病害虫について

1 ムギ類黒節病の発生について（平成23年12月19日発表） 埼玉県病害虫防除所

(1) 病害虫名 ムギ類黒節病

ウ これらの発病株を農総研病害虫防除技術担当で検査した結果、本病はムギ類黒節病であると判断された。

(2) 発生経過

エ 我が国における本病の発生は、昭和12年頃初めて鳥根県で確認され、その後関東地域でも報告されているが、本県での発生報告は今回が初めてである。

ア 平成22年3～5月、農林総合研究センター（以下「農総研」という）内ほ場において栽培中の大麦及び小麦で、葉身に黒褐色で紡錘形ないし不整形の病斑を生じたり、葉鞘に褐色の病斑を生じる様子が見られた。小麦では穂の出すくみや穂枯れ症状も認められた。

(3) 病 徴

イ 平成23年4月、農総研所内ほ場及び県北部の生産ほ場の大麦において、前年同様に葉身や葉鞘に黒褐色ないし褐色の病斑を生じたり、莖立期後の生育抑制を生じる株が散見された。

ア 3～4月にかけて、葉身や中肋に黒褐色～褐色の病斑を生じる。

イ 病勢が進展した場合、生育抑制が生じる場合もある。節の部分が褐変し、これが黒節病の病名の由来である。

ウ 葉鞘にも不整形で褐色の病斑を生じる。小麦では、止葉の葉鞘に発生したのち穂の出すくみを生じる場合もある。

エ 穂が侵された場合には穂枯れ症状や穂焼け症状となる。

(4) 病原菌の特徴と発生生態

ア 病原菌は細菌の一種で、生育適温は25℃前後であるが、発病好適条件は低温多湿である。

イ 本細菌は乾燥に強く、種子に付着して生残り次作の伝染源となる。また、罹病残渣や土壌中で生残り伝染源となる可能性がある。

(5) 防除対策

ア 本病に対する登録薬剤はないため、予防に重点を置き、早期発見と被害株除去に努める。

イ 種子伝染するため、健全種子を使用する。

ウ 早播すると多発する傾向にあるので、適期に播種をする。

エ 多肥条件や初期生育が旺盛な場合は発病が多くなる傾向にあるので、適正な生育量を保つ。

オ 被害ワラは、ほ場の周辺に放置せず処分する。

カ 冬季に寒害を受けた後、定期的な降雨や降雪がある年次に発生しやすい傾向がある。暖冬で軟弱気味に生育した後、このような気象条件に遭遇した場合は要注意である。



小麦の黒節病（葉鞘の病斑）

2 ネギ葉枯病菌による黄色斑紋症状の発生について(平成24年12月6日発表)

(1) 病害虫名 ネギ葉枯病(黄色斑紋症状) *Stemphylium vesicarium*

(2) 発生経過

ア 平成24年3～4月、県北部の産地において収穫期となったネギで、出荷部位である中心葉に、退緑小斑点や黄緑色の不規則な斑紋を生じる被害が発生した。

イ 県農林総合研究センターにおける調査の結果、ネギ葉枯病菌による黄色斑紋症状と判明した。

ウ ネギ葉枯病は古くから知られている病害であるが、ネギ葉枯病菌による黄色斑紋症状の確認は本県で初めてである。黄色斑紋症状は北海道の夏ネギで平成17年頃より問題となり、三澤(2008)により原因究明がなされ、その主要な病原菌は *Stemphylium vesicarium* であることが報告されている。

(3) 病 徴

ア ネギの葉身に退緑した小斑点や、黄色の不規則な斑紋を生じる。出荷部位である中心葉に発生する場合も多く、このような株は商品価値を失う。

イ 病原菌は *Stemphylium* 属に特徴的な、褐色・俵型の分生胞子を形成する。

ウ ほ場で葉枯病(葉の先枯れ症状や褐色円形病斑)が発生している場合は、黄色斑紋症状の発生にも注意が必要である。

(4) 病原菌の特徴と発生生態

ア 病原菌は糸状菌の一種で生育適温は25℃前後であるが、本症状は15～20℃で多発する。降雨により発生が増加する。

イ 病原糸状菌は罹病残渣とともに生残し、次作の伝染源となる。葉先枯れや円形病斑上に形成



中心葉の黄色斑紋症状

された分生胞子が、中心葉に感染し黄色斑紋症状の原因となる。

ウ 土壌pHが低い場合や、窒素過多の場合に発生が多くなる傾向がある。

(5) 防除対策

ア ほ場を注意深く観察し、早期発見に努める。

..... ◇ ◇ ◇

3 スモモ^{ふいりか}斑入果病について（平成25年1月30日発表）

(1) 病害虫名 スモモ斑入果病

(2) 発生経過

ア 平成24年7月、県中央部の産地において、果皮がキリンの斑紋に似た黄色と赤紫色のまだら模様になった斑入果が発生した。

イ 県農林総合研究センターにおいて遺伝子診断（RT-PCR法）により検定した結果、スモモ斑入果病の病原であるホップ矮化ウイルスが検出された。

ウ ホップ矮化ウイルスによるスモモ斑入果病

ネギ葉枯病に対する登録薬剤を用いて、発生初期から防除を行う。

イ 土壌pHを適正域に保つとともに、適切な施肥管理を行う。窒素過多は避ける。

ウ 15～20℃のやや低温と、適度な降雨は本病の発生を助長するので、10～11月や3月に降雨が多い場合は注意が必要である。

は、本県では初めて確認された。

本病は、1985年に山梨県で初確認され、その後、福岡県、福島県、島根県及び長崎県で発生が報告されている。

(4) 病 徴

果実のみに発生し、葉や新梢などには症状は見られない。樹勢の低下も見られない。太陽、大石早生、サンタローザ等の品種では斑入果となる。一方、ソルダムでは斑入果症状は見られず、果粉の形成が薄く、果肉は硬く黄色がかり、成熟期になっても鮮紅色とならず黄果症状となる。



スモモ斑入果病の症状（品種：貴陽）

熟期は健全樹よりも7～10日程度遅れ、果肉は硬く締まり軟化が遅れ、食味が悪くなる。

(5) 伝染形態

- ア 主に接ぎ木伝染するため、感染樹からの採穂によって苗木を育成したり、高接ぎすることにより伝染する。
- イ せん定などの管理作業時に汁液伝染する。

(6) 防除対策

- ア 健全苗を使用する。
- イ 発病樹は伐採・抜根など適切な処分を行い、健全樹を植える。

ウ せん定等に用いるはさみや鋸等は、1樹毎に水洗いし市販の次亜塩素酸ナトリウムの消毒薬または家庭用塩素系漂白剤（例：次亜塩素酸ナトリウム5%含有のものであれば2倍液に30秒間）に漬けて消毒する。

家庭用塩素系漂白剤の中には、濃度の薄いものもあるのでラベルで確認する。

次亜塩素酸ナトリウムは時間がたつと効果が低下するので、購入してから時間がたったものや希釈して作り置きしたものは使用せず、新たなものを用意する。

また、次亜塩素酸ナトリウムには金属腐食性があり、プラスチックやゴムも劣化させるので取り扱いに注意し、使用後はさみや鋸等は十分な水洗い等を行う。

..... ◇ ◇ ◇

Ⅱ 新農薬情報

全農埼玉県本部生産資材部

園芸殺菌剤

「ファンベル顆粒水和剤」

2012年8月に農薬登録が認可された薬剤です。施設栽培等のローテーション防除の一剤として有効です。

ファンベル顆粒水和剤の特徴としては

1. 新規有効成分ピリベンカルブと、イミノクタジナルベシル酸塩との混合剤です。
2. ワイドスペクトラムな園芸殺菌剤で各種病害

に高い予防効果を示します。

特に灰色かび病、葉かび病などに優れた効果を示します。

3. 予防効果に加えて病斑進展阻止効果を有し、また進達性や残効性も有します。
4. 既存の各種耐性菌に対しても効果を発揮します。

また、異なる作用成分を混合しているため、薬剤耐性菌の発達リスクを抑えます。

5. セイヨウミツバチ等の花粉媒介昆虫に対する影響が少ない。

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	水和倍率	使用濃度	使用時期	薬剤の 使用回数	使用 方法	イミノクタジナル ベシル酸塩の使用回数	ピリベンカルブを 含む薬剤の使用回数
きゅうり	葉かび病 根腐病 果腐病	1000倍	100～300g /10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	5回以内	3回以内
いちご	灰色かび病 うどんこ病 炭疽病						7回以内 (有病期は5回以内) (本薬では2回以内)	
トマト	灰色かび病 すすかび病 うどんこ病 葉かび病						3回以内	

上手な使い方

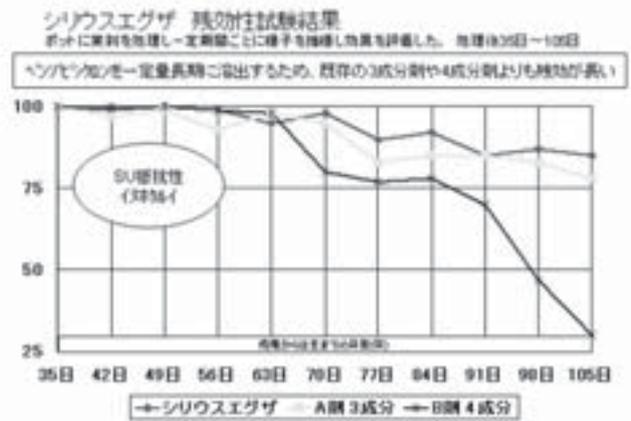
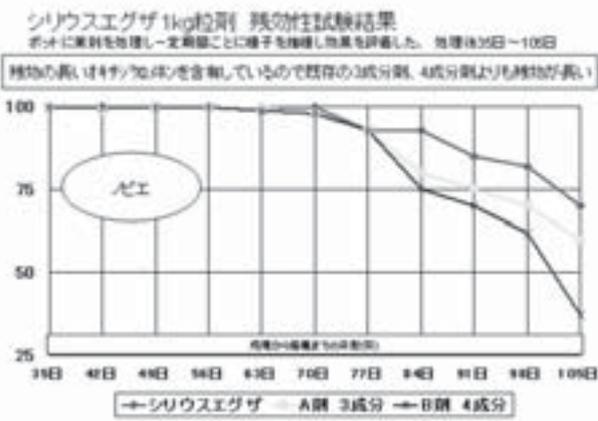
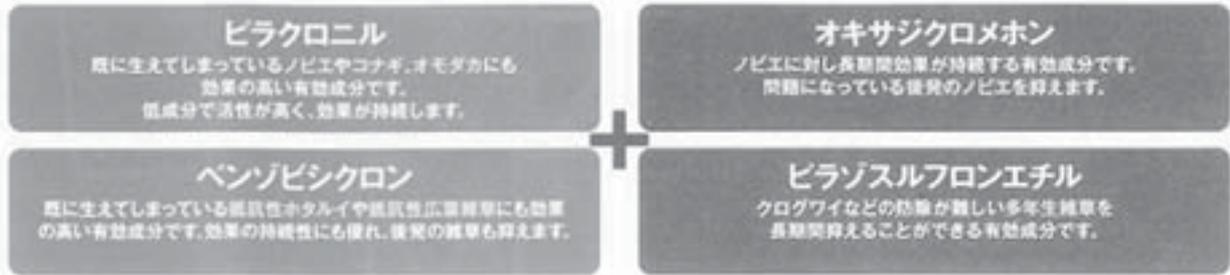
- 散布液調製時には溶液を十分に攪拌してください。調製後は速やかに散布してください。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、なるべく作用性の異なる薬剤とのローテーションで使用してください。



製品規格: 250g × 40

水稻用一発除草剤 「シリウスエグザ」

- シリウスエグザは、「既に生えている雑草に効く成分」と「雑草に長く効く成分」の4成分の組み合わせにより、発生のタイミングが異なる様々な雑草を長く抑えます。



殺草スペクトラム ◎: 著効、○: 有効

ノビエ	一年生広葉雑草	カヤツリグサ	ホタルイ(R)	コナギ(R)	アゼナ(R)	ミゾハコベ	アブノメ	クログワイ	オモダカ	ミズガヤツリ	ヒルムシロ	セリ	アオミドロ・藻類
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

(R): SU抵抗性雑草を含む

- 抵抗性雑草に効果のある「ピラクロニル」と「ベンゾビスシクロン」をダブルで配合、ホタルイやコナギ等のSU抵抗性雑草をしっかり抑えます。
- 「ピラゾスルフロンエチル」を含有するため、様々な深さから発生してくるクログワイ等の多年性雑草に対して高い効果を示します。

- 「田植え同時処理」でも、長期間雑草の発生を抑えます。

≪1キ口粒剤 田植え同時処理 2011年圃場試験結果≫
5月11日処理 78日後(7月29日)撮影



- 剤型、規格および有効成分量

	登録番号	有効成分				荷姿
		オキサジクロメホン	ピラクロニル	ピラソルフロンエチル	ベンゾビシクロン	
1キ口粒剤	第22969号	0.40%	2.0%	0.30%	2.0%	1kg、10kg
ジャンボ	第23116号	1.4%	6.6%	1.0%	6.7%	300g、900g
顆粒	第23117号	5.0%	25.0%	3.75%	25.0%	80g

■適用雑草と使用方法

*本剤及び、それぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	剤型・使用量	総使用回数*	使用方法	適用地域	
移植水稻	水田一年生雑草 及び、 マツバイ(1キ口粒剤・顆粒:全域、 ジャンボ:九州を除く)、 ホタルイ、 ウリカワ、 ミズガヤツリ(北海道を除く)、 ヘラオモダカ (1キ口粒剤:北海道、東北 ジャンボ・顆粒:北海道)、 ヒルムシロ、 セリ(1キ口粒剤:全域、 ジャンボ・顆粒:北陸を除く)、 オモダカ (1キ口粒剤:関東・東山・東海、 九州を除く)、 クログワイ (1キ口粒剤:北海道、九州を除く)、 アオミドロ・藻類による表層はく離 (1キ口粒剤:関東・東山・東海、 近畿・中国・四国)	移植時	砂壤土～埴土	1キ口粒剤: 1kg/10a	本剤: 1回	田植同時 散布機で 施用	全域(北海道、九州を除く) の普通期及び 早期栽培地帯	
			埴土～埴土				北海道、九州の 普通期及び 早期栽培地帯	
		移植直後～ ノビエ2.5週間 ただし、 移植後 30日まで	砂壤土～埴土	ジャンボ: 小包装(パック) 10個(300g)/10a	オキサジクロメホン剤: 2回以内	オキサジクロメホン剤: 2回以内	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる	全域(北海道、九州を除く) の普通期及び 早期栽培地帯
			埴土～埴土					北海道、九州の 普通期及び 早期栽培地帯
			砂壤土～埴土	顆粒: 50g/10a ※貯水量 500ml/10a	ピラクロニル剤: 2回以内	ピラクロニル剤: 2回以内	水田散布	全域(北陸を除く)の 普通期及び 早期栽培地帯
			埴土～埴土					北陸 全域 (東北、近畿・中国・四国を除く) の普通期及び早期栽培地帯
			砂壤土～埴土	顆粒: 80g/10a	ピラソルフロンエチル剤: 1回	ピラソルフロンエチル剤: 1回	水田散布	近畿・中国・西国の 普通期栽培地帯
			埴土～埴土					東北
砂壤土～埴土	顆粒: 80g/10a	ベンゾビシクロン剤: 2回以内	ベンゾビシクロン剤: 2回以内	顆粒 水口施用	全域 (東北、近畿・中国・西国を除く) の普通期及び早期栽培地帯			
埴土～埴土					近畿・中国・西国の 普通期栽培地帯 東北			

本登録内容は2012年9月現在の登録内容に基づいています。

◆ 「ガッテン乳剤」

大塚アグリテクノ株式会社が新たに開発した「ガッテン乳剤」農林水産省登録（第23208号）は、平成25年2月1日に農薬登録が認可された。野菜及び花き類のうどんこ病に対して優れた効果を示す新規系統の殺菌剤です。

有効成分はフルチアニル5% 人畜への安全性は毒劇物に該当しない普通物、低濃度で優れた殺菌効果があり、各種作物に対して安全性が高い上に、哺乳類に対する安全性及び環境に対する安全性も高く優れた性質を有する薬剤です。

ガッテン乳剤の特長として

1. “デュアルカットオフ効果”で既存剤に対して感受性が低下したうどんこ病に対しても高い効果を示す。

うどんこ病菌に対して「吸器形成阻害」と「吸器からの栄養吸収阻害」の2種類（デュアル）の阻害作用により、菌体への栄養供給を遮断（カットオフ）します。

2. 残効性に優れ、1シーズン中のうどんこ病防除回数の低減が期待できます。

3. 病斑拡大抑制作用、分生子形成阻害作用及び分生子遊離阻害作用で2次感染（病気の拡大）を遮断します。
4. 果実に対する汚れの心配が少なく、収穫前日まで使用可能です。
5. 有用生物や天敵に対する影響が少なく、IPM（総合防除）体系に有用な資材として使用できます。

ガッテン乳剤の上手な使い方

1. うどんこ病は耐性菌の発達しやすい病害の一つです。系統の異なる殺菌剤との“ローテーション防除”を心がけて下さい。
2. うどんこ病の病斑が認められた後に散布した場合、病斑が残ることがあります。その後病気が拡大することはありませんが、発病前～発病初期の“早めの散布”をおすすめします。
3. うどんこ病にのみ高い効果を示します。うどんこ病以外の病害が発生する場合は、それらの病害に対して有効な薬剤との“体系処理”を行ってください。

ガッテン乳剤製品規格：40ml×40 100ml×20

〔大塚アグリテクノ株式会社 ガッテン乳剤技術資料2013年2月版より引用〕

適用病害と使用方法

作物名	適用病害虫	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルチアニルを含む農薬の総使用回数
きゅうり なす すいか メロン かぼちゃ いちご	うどんこ病	5000倍	100～300 L / 10a	収穫先日 まで	2回以内	散布	2回以内
花き類 観葉植物				発病前～ 発病初期			

※ 使用前に、ラベルをよく読んで使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意してください。又、使用上の注意事項等を必ず守ること。

◆「アクシズMX 1キロ粒剤」

シンジェンタジャパン株式会社より平成25年2月1日に農薬登録が認可された

水稲用一発処理除草剤「アクシズMX 1キロ粒剤」農林水産省登録(第23224号)を紹介いたします。

有効成分：ピリフタリド・2.4%
メソトリオン・0.9%メタゾスルフロン・・・0.8%

アクシズMX 1キロ粒剤の特長

1. 新規有効成分(メタゾスルフロン)を含む3成分の新しい初中期一発剤
2. 発生後のSU抵抗性雑草をはじめ、水田雑草全般に広いスペクトラム
3. 散布適期が移植7日後からノビエ4.0葉期までと幅広い
4. まき遅れによる雑草の取りこぼしを低減
5. 一発処理だけでなく、初期剤との組み合わせにも対応(移植後30日まで)

新規化合物メソトリオンの創製の経緯

メソトリオンは、植物が分泌する天然の植物活性成分(アレロケミカル)の構造を模して、新たな除草剤を作出する試みのなかから見出された化合物です。ブラシノキの樹下の土壌および葉から、レプトステルモンを発見。レプトステルモンはイヌビエの芽生えを白化させる作用を示しました。

※アレロケミカルとは、植物の根などから分泌され、他の植物の生育を抑制して競合を防ぐ働きを示す天然化学物質です。

メソトリオンの作用特性

HPPD阻害を作用点とし、カロチノイド系色素阻害を経て白化作用をもたらします。

茎葉および根から植物体内に取り込まれ、導部や師部を移動して速やかに植物体内全体に行き渡ります。殺草スペクトルが広く、雑草の発生前および発生後の処理で効果を示します。



おわりに

人間をはじめ動物は、生きる為に必要なエネルギー全てを食糧に依存している。食糧の生産は全て農林水産業であり、その一端を農業が担っている。

近年、食の安心・安全及び環境問題等、農業を取巻く社会的関心は非常に高まってきています。農作物等の病害虫・雑草等から保護し、作物自体の生育を調節することにより農業生産の安定、生産物の品質向上、農業者の省力化、効率化を図るための重要な農業資材という定義をもっている農業を、安全且つ適正に使用することは、大変重要な事です。

適用雑草の範囲及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用 土壌	使用量	本剤の 使用回数	使用 方法	適用地帯
移植 水稻	水田一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、ミズガヤツリ、 ヘラオモダカ（東北） ヒルムシロ、セリ	移植後 7 日 ～ノビエ 4 葉期 ただし、移植後 30 日まで	砂壤土 ～埴土	1KG / 10 a	1 回	灌水 散布	全域 (北海道、近畿、中国、四国を除く) の普通期 および早期栽培地帯
							近畿・中国・四国の 普通期栽培地帯

ピリフタリドを含む農薬の総使用回数	メソトリオンを含む農薬の総使用回数	メタゾスルフロンを含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

※使用上の注意事項などについては、シンジェンタジャパン株式会社ウェブサイトを参照して下さい

殺草スペクトル（日植調委託試験成績及び社内試験結果より）除草効果 ◎：極大 ○：大 △中～小 ×：効果なし

草種	ノビエ	カヤツリ グサ	コナギ	一年生 広葉雑草	マツバイ	イヌ ホタルイ	ヘラオモ ダカ	ミスガヤ ツリ	ウリカワ	ヒルムシロ	SU 抵抗性雑草	
											コナギ	イヌホタルイ
アクシズ MX1 キロ G	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ピリフタリド	◎	△	×	△	○	△	×	△	×	×	×	△
メソトリオン	△	◎	◎	◎	○	◎	◎	△	△	○	◎	◎
メタゾスルフロン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

アクシズ MX1 キロ粒剤製品規格：1KG×12

「シンジェンタジャパン株式会社 アクシズ MX1 キロ粒剤 2013 年 2 月版チラシ等より引用」



↑ ノビエの白化作用

ミズガヤツリの抽出葉白化 →



Ⅲ 病害虫こぼれ話

アオマツムシの分布拡大と樹木の葉の食害

埼玉県農林総合研究センター 病害虫防除技術担当 江村 薫

はじめに

アオマツムシ *Trujalia hibinonis* (Matsumura, 1917) (写真1) は、東京で採集された個体を模式標本として松村が命名した種であるが、1900年前後の日本への侵入種であり、中国が原産地とされている。東京を起点として分布拡大が行われたと推定され、定着地域の北限は岩手県盛岡市(日本直翅類学会:2006)、南限は鹿児島県である。鹿児島県での初発見は2002年であり(福田ら:2005)、侵入から、おおよそ100年の歳月を経たことになる。

本種の農作物への被害は、武田(1985)によってカキの果実食害、田中ら(2008)によってナシの新梢産卵の詳細な報告がある。埼玉県では1980年代に急増しており、久喜市においては、1985年に初確認をしている。その後、本種による被害の認識は少なかったが、近年、広葉樹の葉に対する食害を認識するようになってきた。

以下、久喜市における初確認からの市域における分布拡大と食害痕についての観察事例を紹介する。

久喜市における分布拡大

筆者の住む久喜市内において、アオマツムシ特有の鋭い鳴き声を耳にしたのは、1985年の9月であった。一般に知られているマツムシは「チンチロリン」であるが、こちらのアオマツムシは、鋭い鳴き声で「リー・リー」と聞こえる。樹上生活しているので、頭の上から聞こえて、騒々しい。実は、この虫は1970年代後半から渋谷駅周辺など都会のネオン街の街路樹で多発して話題になっていた。筆者は1980年の秋に世田谷区経堂付近でその存在を知ったものの、当時はそれほど気に留めていなかった。

自宅付近でその存在を知ったのは、前記した1985年の9月であり、久喜高校の校庭の樹木での鳴き声であった。周囲を調査したがそれ以外の確認はできなかった。翌年の1986年は、熊谷市の熊谷駅周辺において鳴き声をこの地域で初確認したが、勤務する熊谷市久保島の農業試験場(現、水田農業研究所)付近では確認できなかった。久喜市では、前年と同様に久喜高校周辺での鳴き声が多く、分布は久喜駅周辺の街路樹に広がっており、翌1987年には、街路樹沿いに駅前から東方向に拡大した。丁度、自宅の周辺において分布が広がっていることから、鳴き声が聞こえる9月になると、その拡大状況を帰宅途中に観察を続けると、年を追って分布が同心円状に広がり、1990年には市域全体に拡大した(図1)。それから20年以上が経過しているが、現在では、1年間に数個体が自宅に飛び込んでくる。

樹木の葉の被害

農業試験場に在任していた25年間の後、組織換えによって普通作と園芸作の壁が無くなった職場となり、果樹や花木の害虫が気になりはじめた。その結果、久喜市の自宅周囲では、葉の表面の組織をなめるような食害痕に気がつき、その犯人がアオマツムシの幼虫であることがわかった。写真2はクリの葉の食害痕であり、周囲の葉には幼虫が潜んでいた(写真3)。写真4はゲッケイジュ、写真5はモクレンであり、幼虫と食害痕を同時に撮影することができた。これらのことから、アオマツムシの幼虫は同一の場所に留まって各種の広葉樹の葉を食害するものと考えられた。写真6はブドウの葉の食害痕であり、クリの葉の食害痕(写真2)と類似していた。

おわりに

食害痕から害虫を特定することは、診断技術として重要であり、その基本は食害する犯人捜しとなる。話しは少し変わるが、コムギの白穂の原因としてクビキリギスを疑っているが、移動力の強いクビキリギスが食害する現場が発見出来ないでいる。接種を試みて白穂の発生を期待したが、成功していない。移動力の強い害虫に関しては、屋外での観察はかなり困難であり、接種が重要と考える。害虫の食害痕診断の重要性を感じる今日このごろである。

参考文献

江村薫(1992) 市域の帰化動物、久喜市史通史編上巻、pp.96-100.

福田晴夫ら(2005) 昆虫の図鑑採集と標本の作り方、南方新社、pp.236.

中田健ら(2008) アオマツムシのナシ・カキ園における近年の発生、植物防疫62,277-280.

日本直翅類学会(2006) バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑、北海道大学出版会、pp.687.

武田享(1985) 東海地方におけるアオマツムシの分布拡大とカキおよびナシの被害、植物防疫39,314-317.

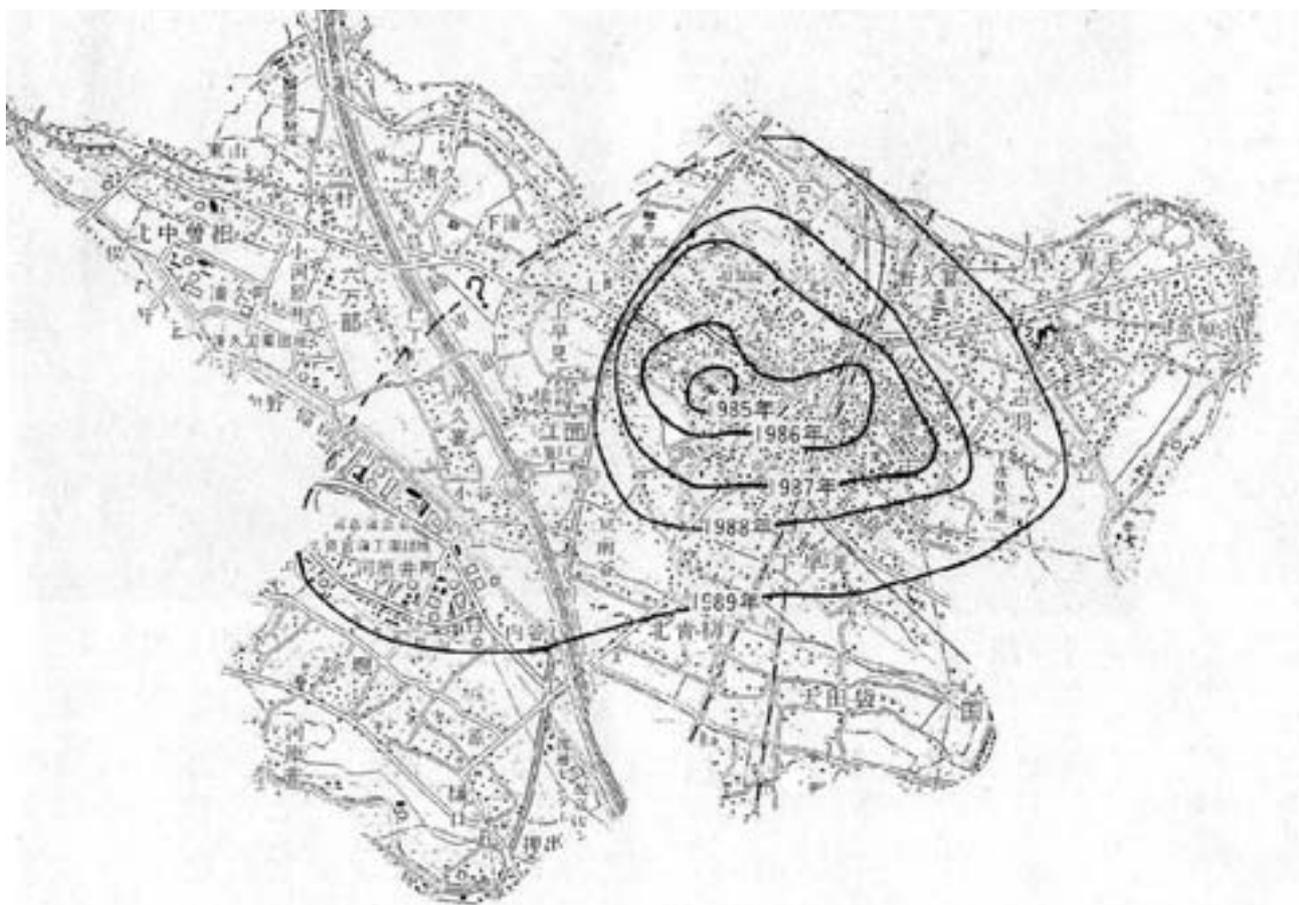


図1 久喜市域におけるアオマツムシの分布拡大の年次推移 (江村：1992)

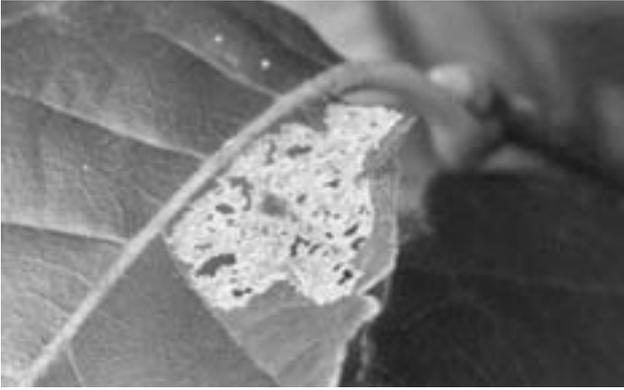


写真1 アオマツムシ成虫



写真2 クリの葉の幼虫による食害痕



写真3 クリの葉に潜む幼虫

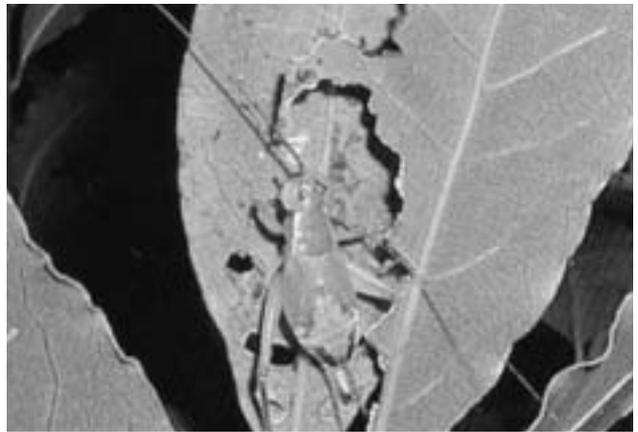


写真4 ゲッケイジュの葉の食害痕と幼虫

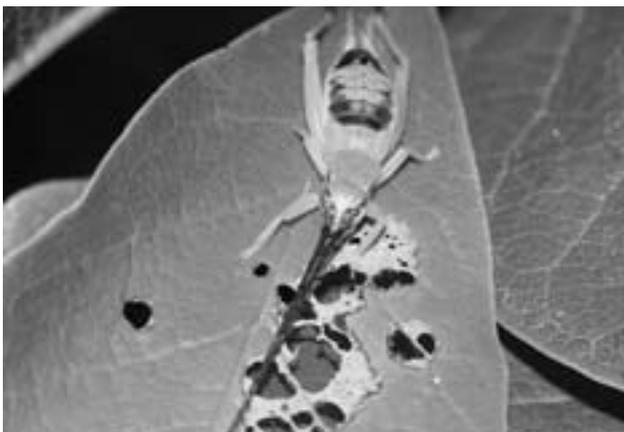


写真5 モクレンの葉の食害痕と幼虫

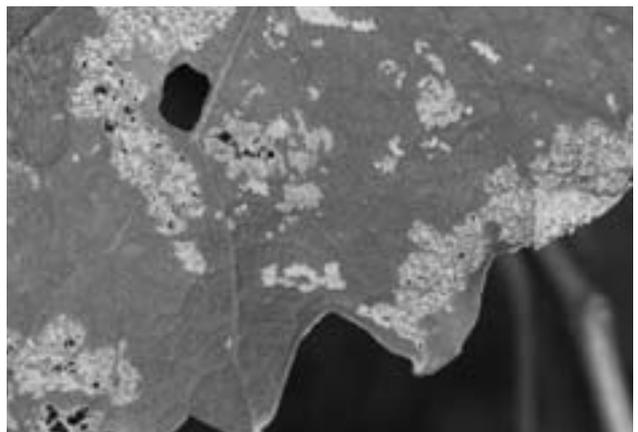


写真6 ブドウの葉の食害痕

Ⅲ 協会だより

1 平成25年度農薬展示ほ申込み状況について

「農薬展示ほ」は、農作物の種類、栽培体系の多様化につれて、複雑多岐にわたる病害虫の発生・被害を的確に防止するため、有効かつ適正な農薬を選定し、新農薬の効果試験・適正使用及び新防除技術の普及・定着を目的に実施されています。

本協会では「農薬展示ほ設置要領」に基づき、現地の要望を優先し、県関係機関等の指導と協力を得て実施しています。平成25年度は89ヶ所の申込みがあり、現地に設置予定です。

○病害虫防除剤展示ヶ所数 72ヶ所 除草剤展示ヶ所数 17ヶ所

○対象作物

病害虫防除剤：水稻、ダイズ、キュウリ、ナス、トマト、レタス、ブロッコリー、ネギ、キャベツ、ダイコン、イチゴ、カンショ、花卉類、ナシ、チャなどの15作目。

除 草 剤：水稻、小麦、ネギ、ニンジンなど4作目。

2 新法人、一般社団法人への移行申請状況について

平成24年度総会で一般社団法人への認可申請することを決定し、8月の臨時総会で移行後の新定款（案）を定め、その後、認定申請書を県に提出（電子申請）しておりました。現在、平成25年2月22日に諮問、3月8日の審議会を経て、埼玉県公益法人認定等審議会から知事あてに認可の答申がされました。これをもって、4月1日の新法人発足となります。